全道7月中の交通事故分析について
（過去5か年死亡・重傷事故）

令　和　7　年　6　月　2　4　日
警　察　本　部　交　通　企　画　課

【概況】

○　発生件数全体の事故類型では、人対車両が最も多く、次いで自転車対車が多い。
　死亡事故は、車両単独が最も多く、次いで人対車両が多い。

○　四輪乗車中の死者のうち、約3割がシートベルト非着用で、非着用のうち6割以上がシートベルトを着用していれば助かった可能性が高い。

○　人対車両は、時間帯別では14時から16時が最も多く、次いで、18時～20時が最も多い。
　地形別では、市街地交差点及び市街地直線で9割以上を占めている。
　人対車両の第１当事者（車両）の違反別では、歩行者妨害が最も多く、次いで前方不注意が多い。
　年齢層別死傷者数では、65歳以上が最も多く、全体の約6割を占めている。
　道路横断中の死者のうち、昼間の左から右方向の横断者が最も多く全体の約6割を占めている。
　また、歩行者側の約8割に信号無視などの法令違反あり。

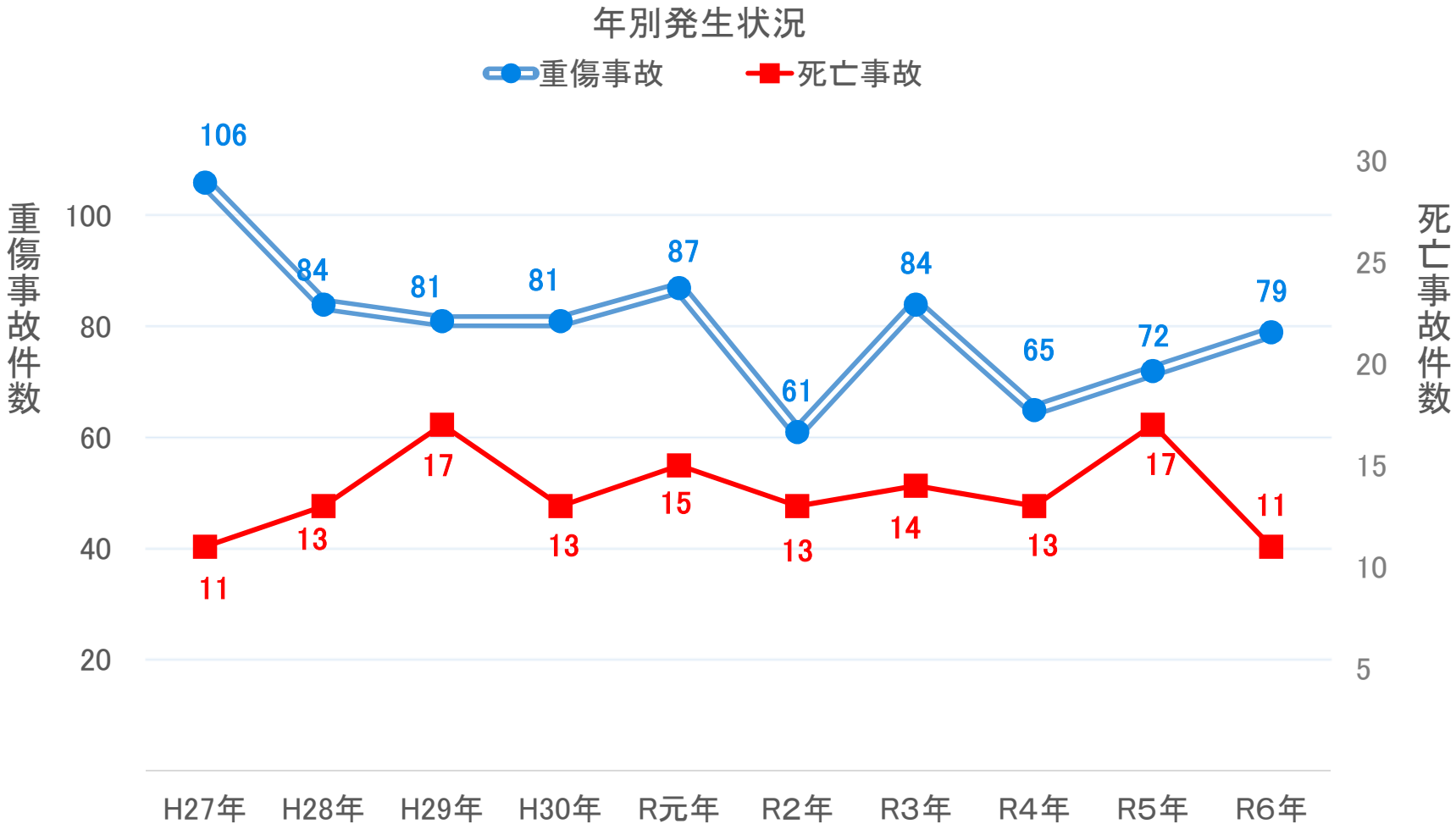
○　正面衝突及び車両単独は、時間帯別の発生件数は16時から18時が最も多い。
　地形別では死亡事故の約8割が非市街地を占める。
　道路別では、道道での発生が最も多い。
　第１当事者の年齢層別では、65歳以上の高齢運転者が最も多く、また法令違反は前方不注意が最も多い。

○　自転車対車は、時間帯別では死亡事故は10～12時、12～14時、14～16時にそれぞれ1件発生している。
　地形別では、市街地での発生が9割以上を占めており、死亡事故は全て市街地交差点で発生している。
　事故類型別では出会い頭が最も多く、出会い頭のうち、自転車側の約5割に信号無視などの法令違反がある。
　年齢層別死傷者数では、65歳以上の高齢者が突出して多い。

注1　本資料は、令和6年12月末日までに入手した7月中発生の事故データにより作成したものである。
注2　「重傷」とは、1か月（30日）以上の治療を要する負傷をいう。
注3　「第１当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等（列車を含む。）の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者、又は過失が同程度の場合には人身損傷程度が軽い者をいい、本資料中の「１当」とは、第１当事者を省略した表記である。

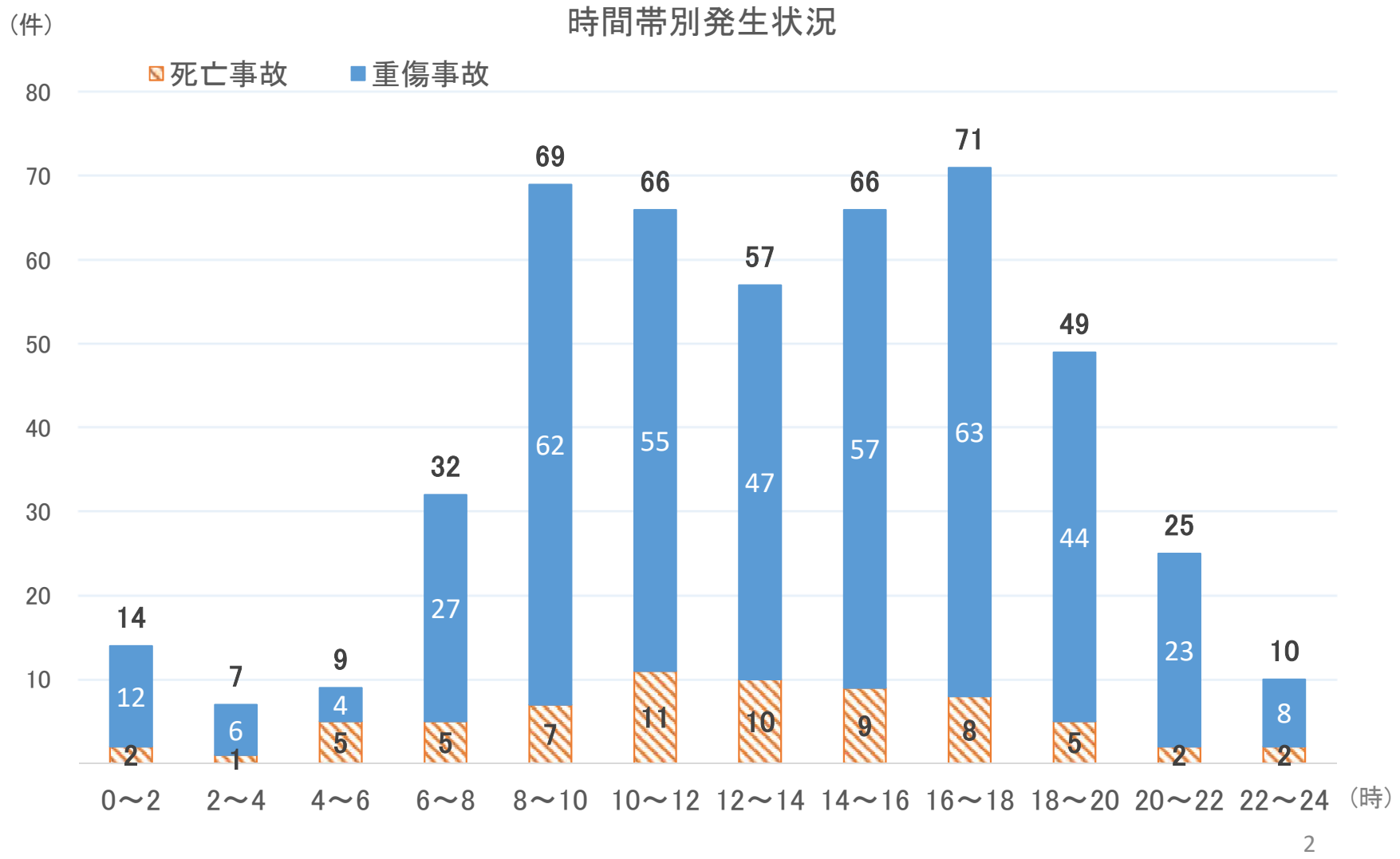
１－１　年別死亡・重傷事故発生状況（過去10年）

死亡事故件数は、平成27年からほぼ横ばいで推移している。
重傷事故件数は、減少傾向で推移しているが、令和４年からみると年々増加している。



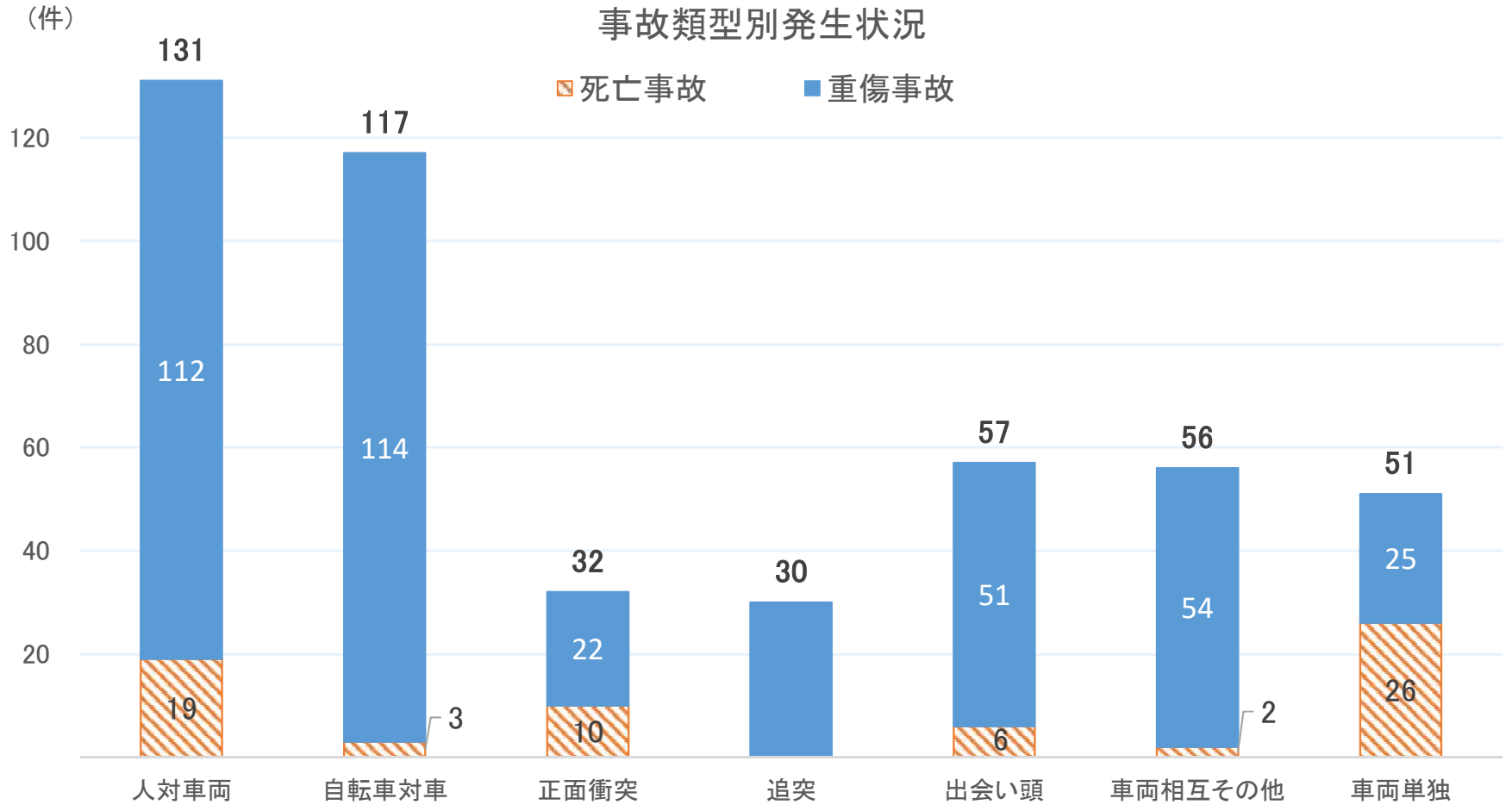
１－２　時間帯別死亡・重傷事故発生状況（過去５年累計）

発生件数全体でみると、16～18時が最も多く、次いで８～10時が多い。
死亡事故件数は、10～12時が最も多く、次いで12～14時が多い。



１－３　事故類型別死亡・重傷事故発生状況（過去５年累計）

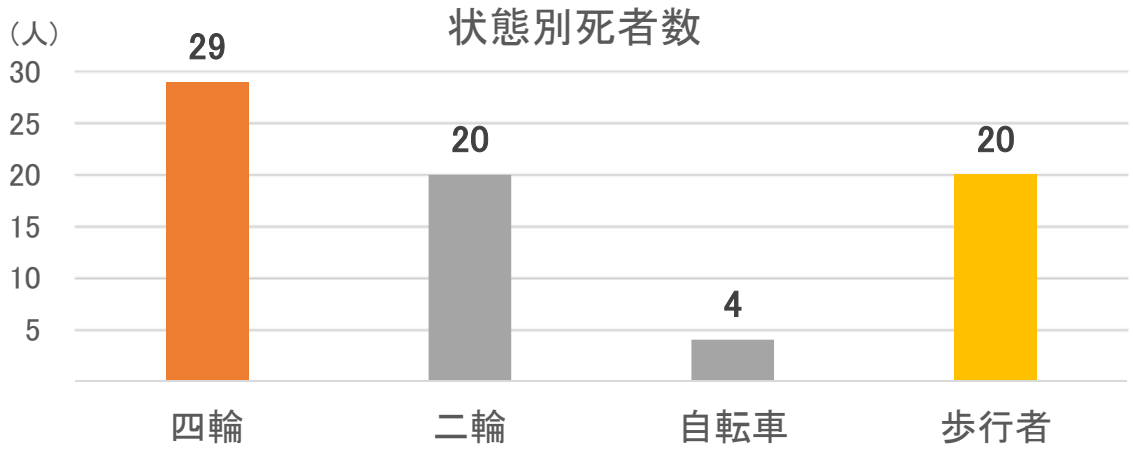
発生件数全体でみると、人対車両が最も多く、次いで自転車対車が多い。
死亡事故件数は、車両単独が最も多く、次いで人対車両が多い。



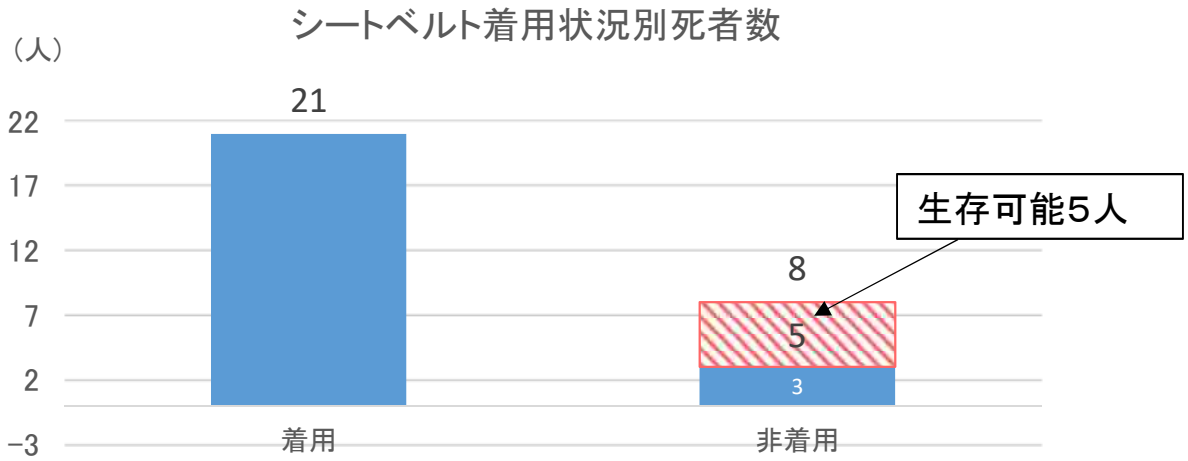
※　列車による死亡事故が１件発生

１－４　状態別死者数、シートベルト着用関係（過去５年累計）

状態別死者数は、四輪乗車中が最も多く、次いで二輪乗車中、歩行者が多い。

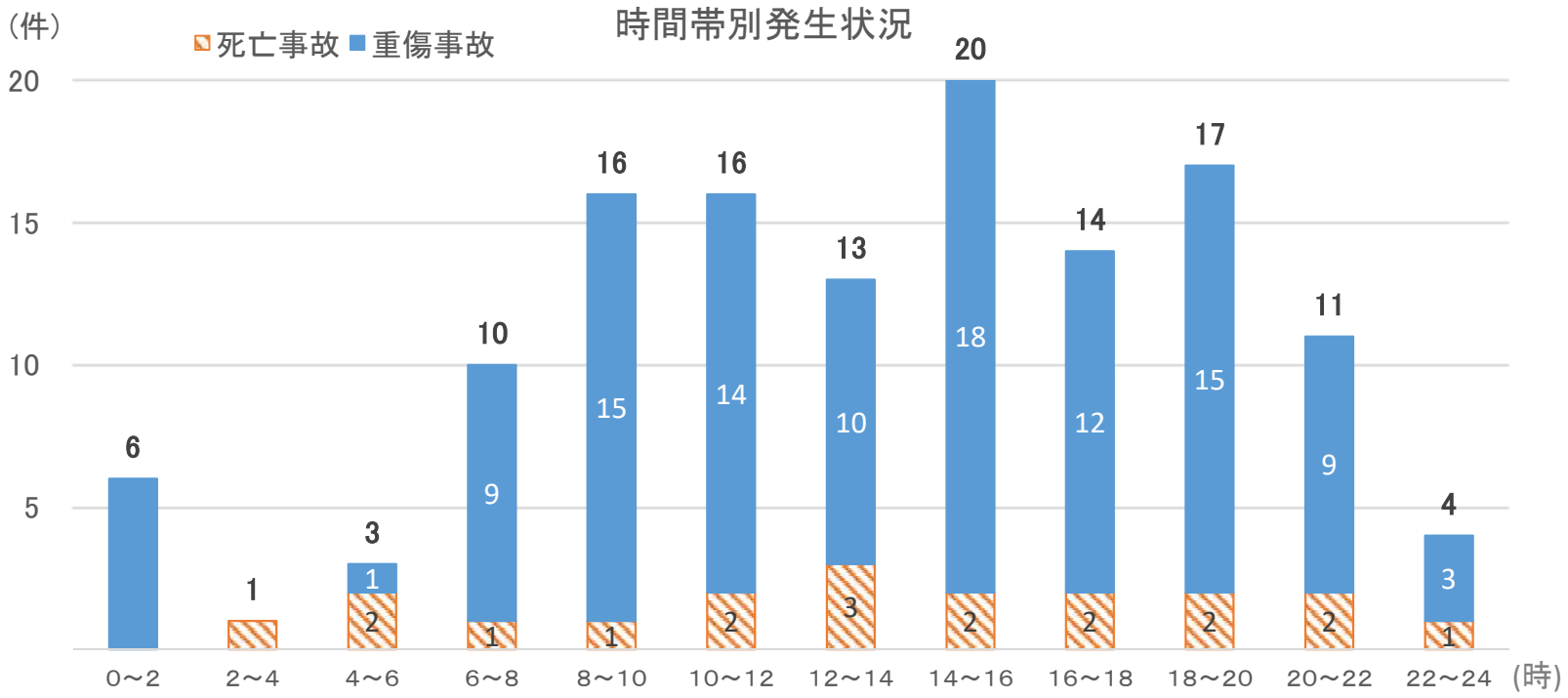


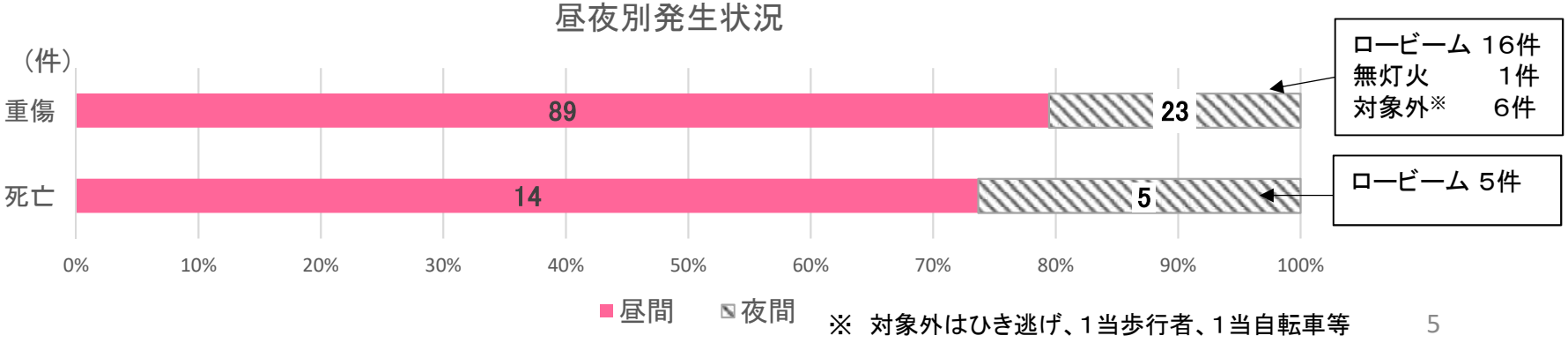
シートベルト着用対象者（四輪）の死者29人中、シートベルト非着用者は８人(27.6%)であり、このうち５人(62.5%)はシートベルトをしていれば助かった可能性が高い。



２－１　人対車両における時間帯別発生状況（過去5年累計）

発生件数全体でみると、14～16時が最も多く、次いで18～20時が多い。
死亡事故件数は、12～14時が3件で最も多かった。

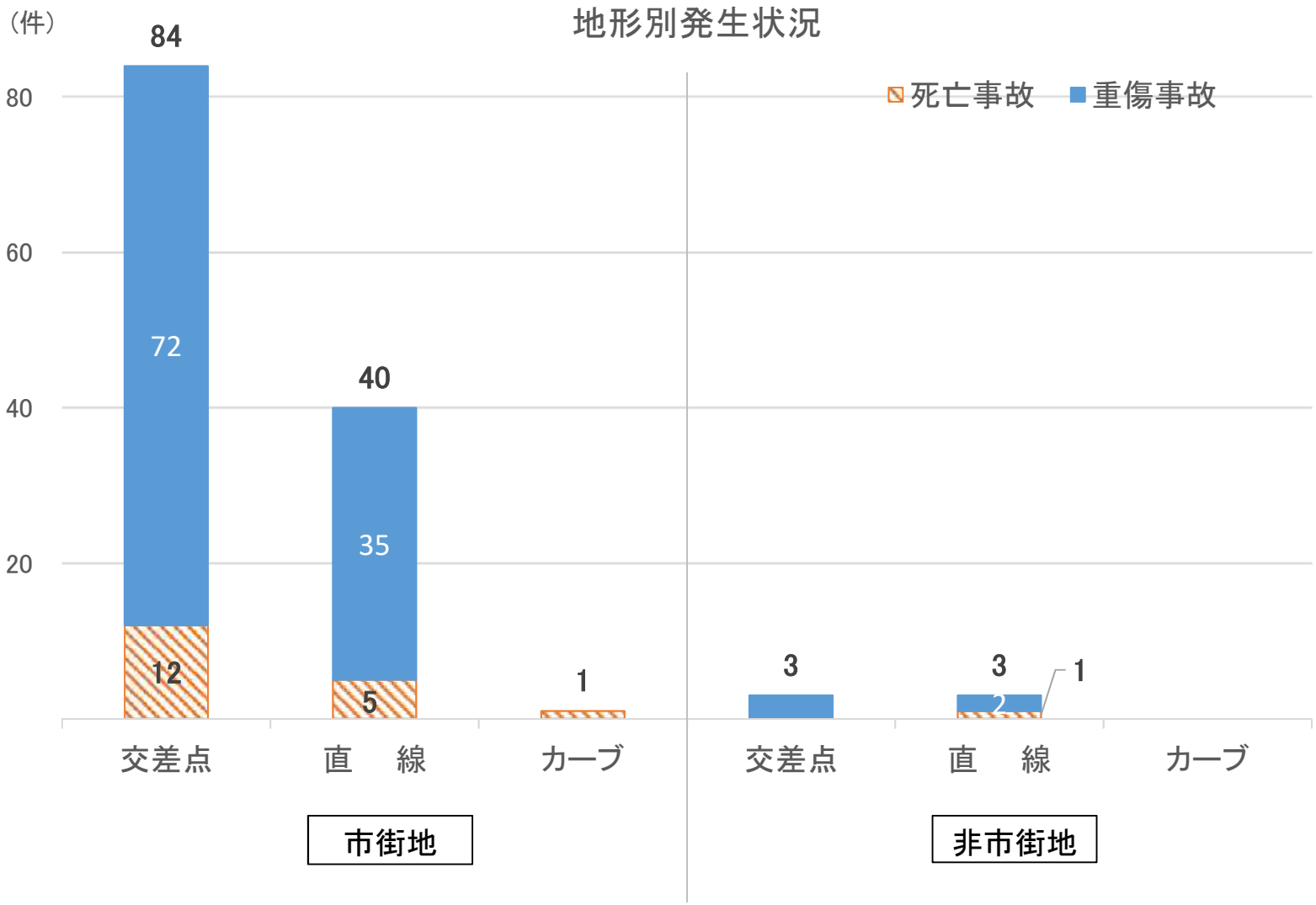




※　対象外はひき逃げ、1当歩行者、1当自転車等

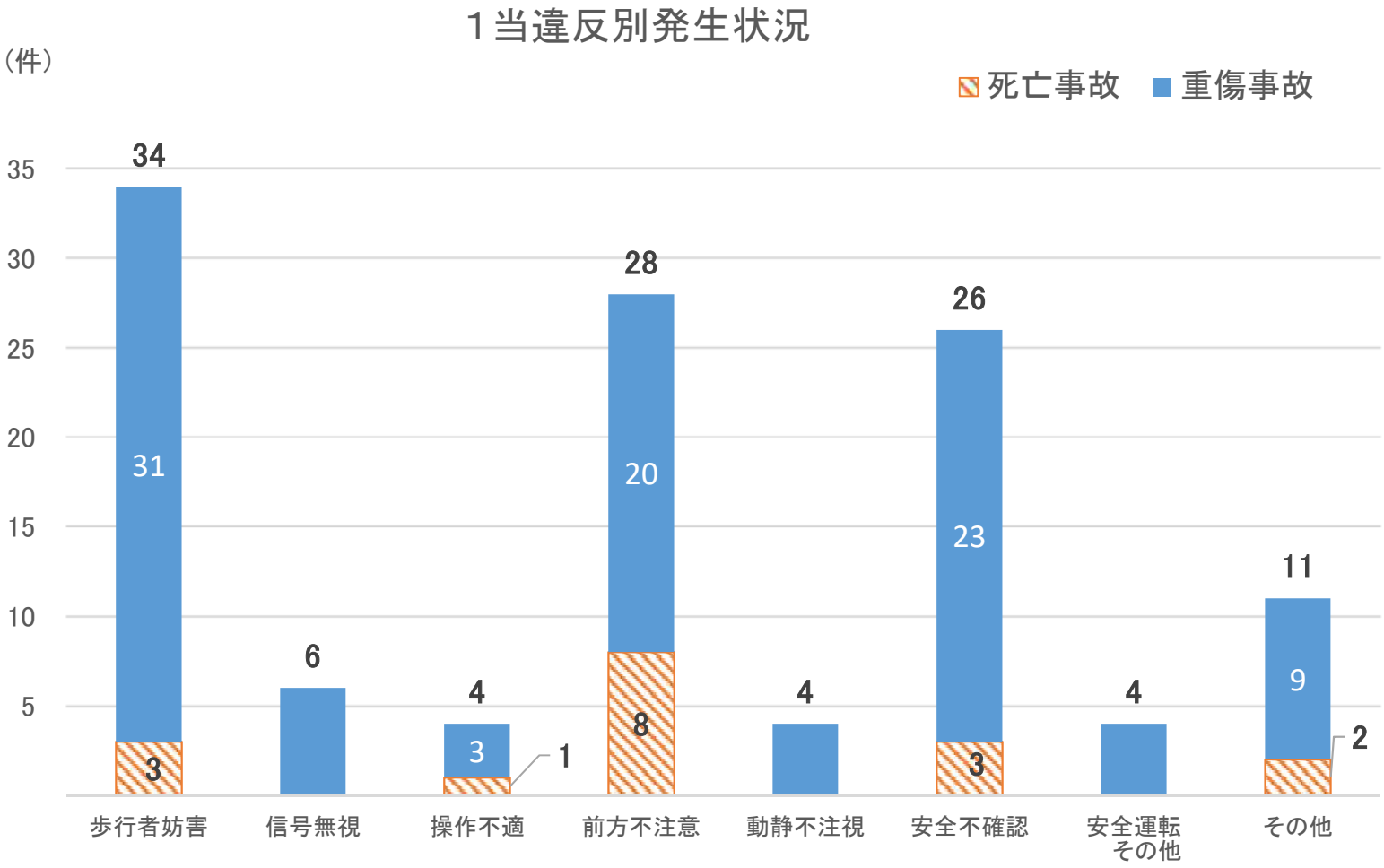
２－２　人対車両における地形別発生状況（過去5年累計）

市街地交差点及び市街地直線で9割以上を占めている。



２－３　人対車両における１当の違反別発生状況（過去5年累計）

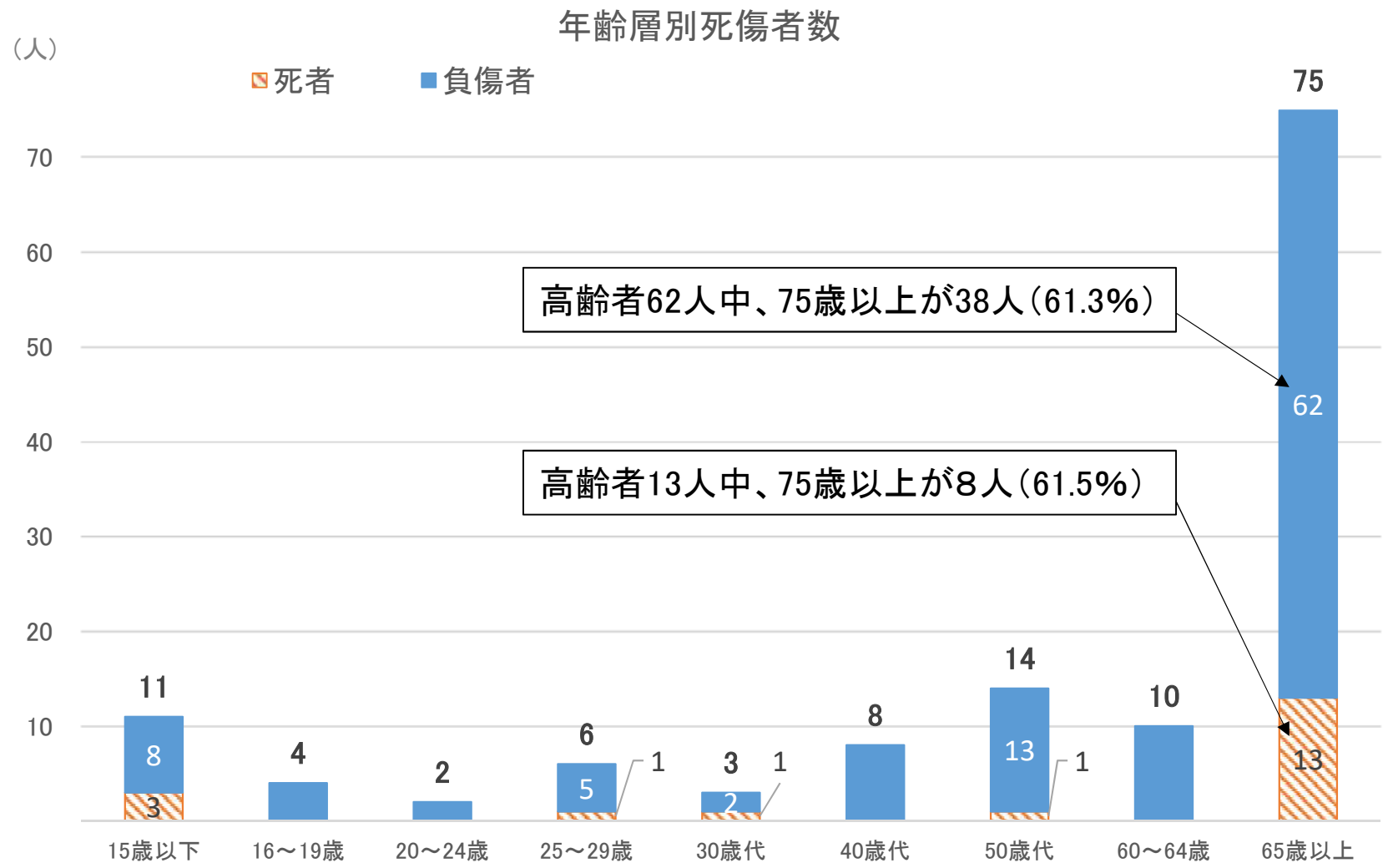
発生件数全体では、歩行者妨害が最も多く、次いで前方不注意が多い。
死亡事故件数は、前方不注意が最も多く、次いで歩行者妨害及び安全不確認が多い。



※　１当がひき逃げ、歩行者及び自転車の場合を除く

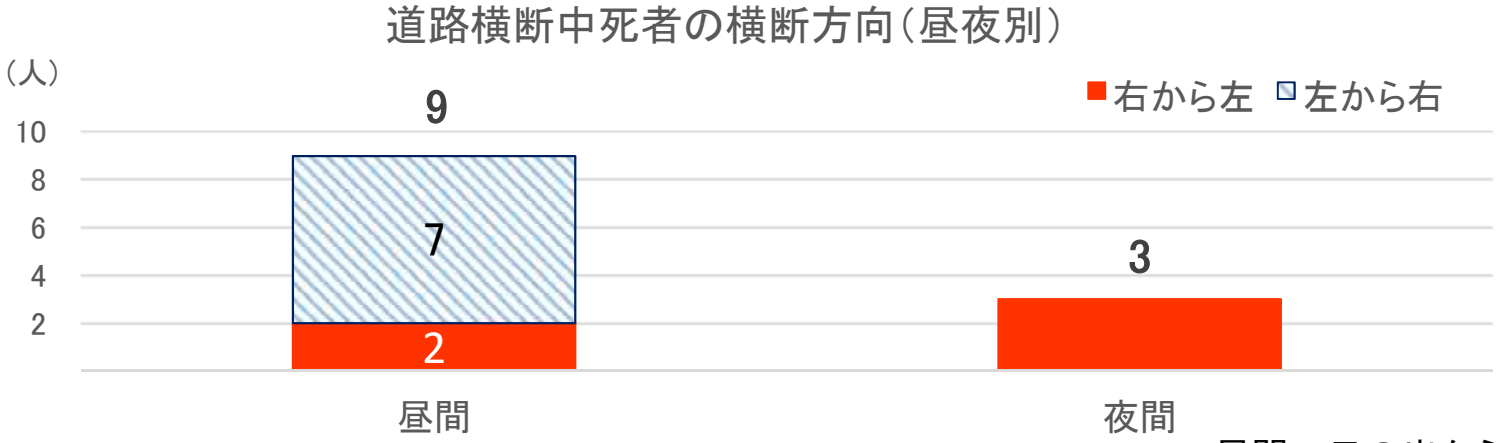
２－４　人対車両における年齢層別死傷者数（過去5年累計）

高齢者（65歳以上）が最も多く、全体の約6割を占めている。

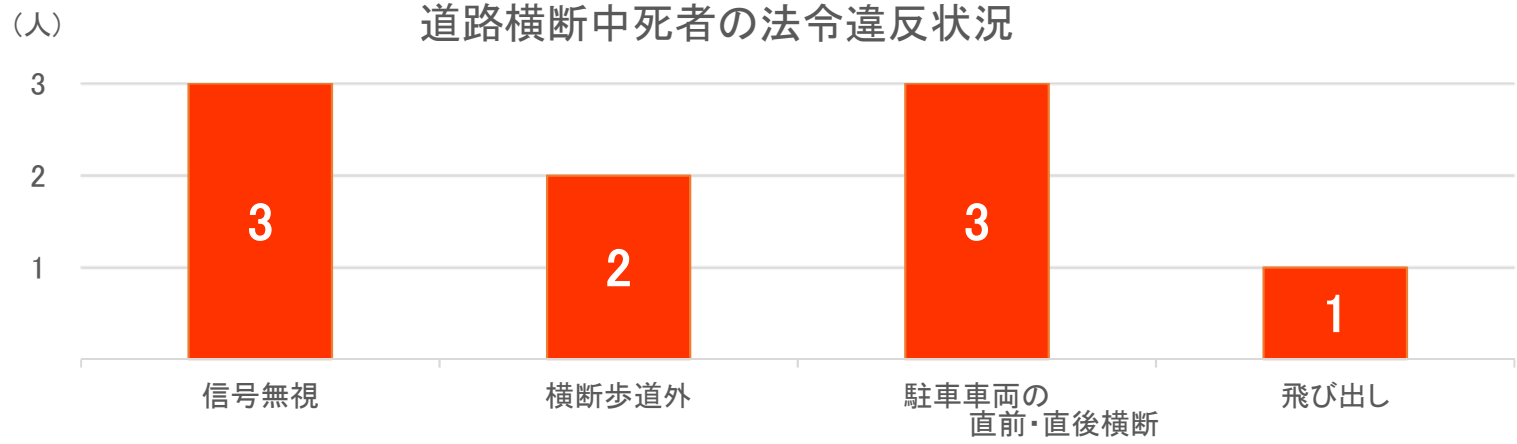


２－５　人対車両における歩行者の横断方向別死者数・法令違反状況（過去5年累計）

道路横断中の死者12人のうち、昼間が9人、夜間は3人となっており、特に昼間の左から右方向の横断者が7人と全体の約6割を占める。



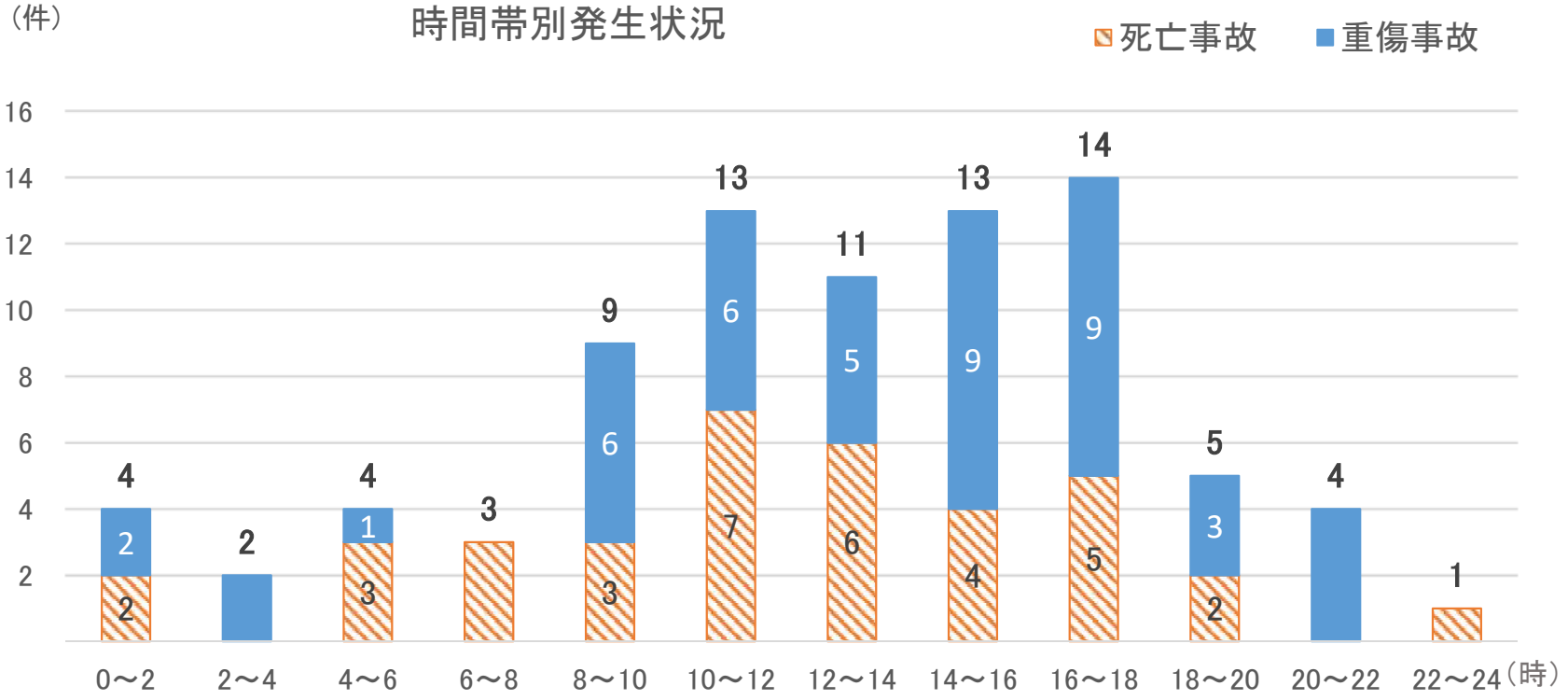
昼間～日の出から日の入りまで
夜間～日の入りから日の出まで

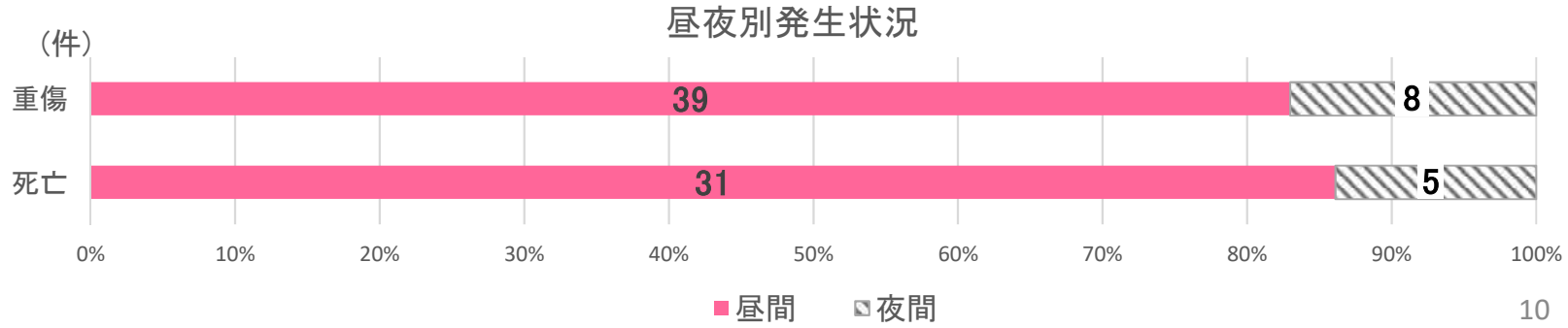


道路横断中の死者のうち、歩行者側の約8割に信号無視などの法令違反あり。

３－１　正面衝突・車両単独における時間帯別発生状況（過去５年累計）

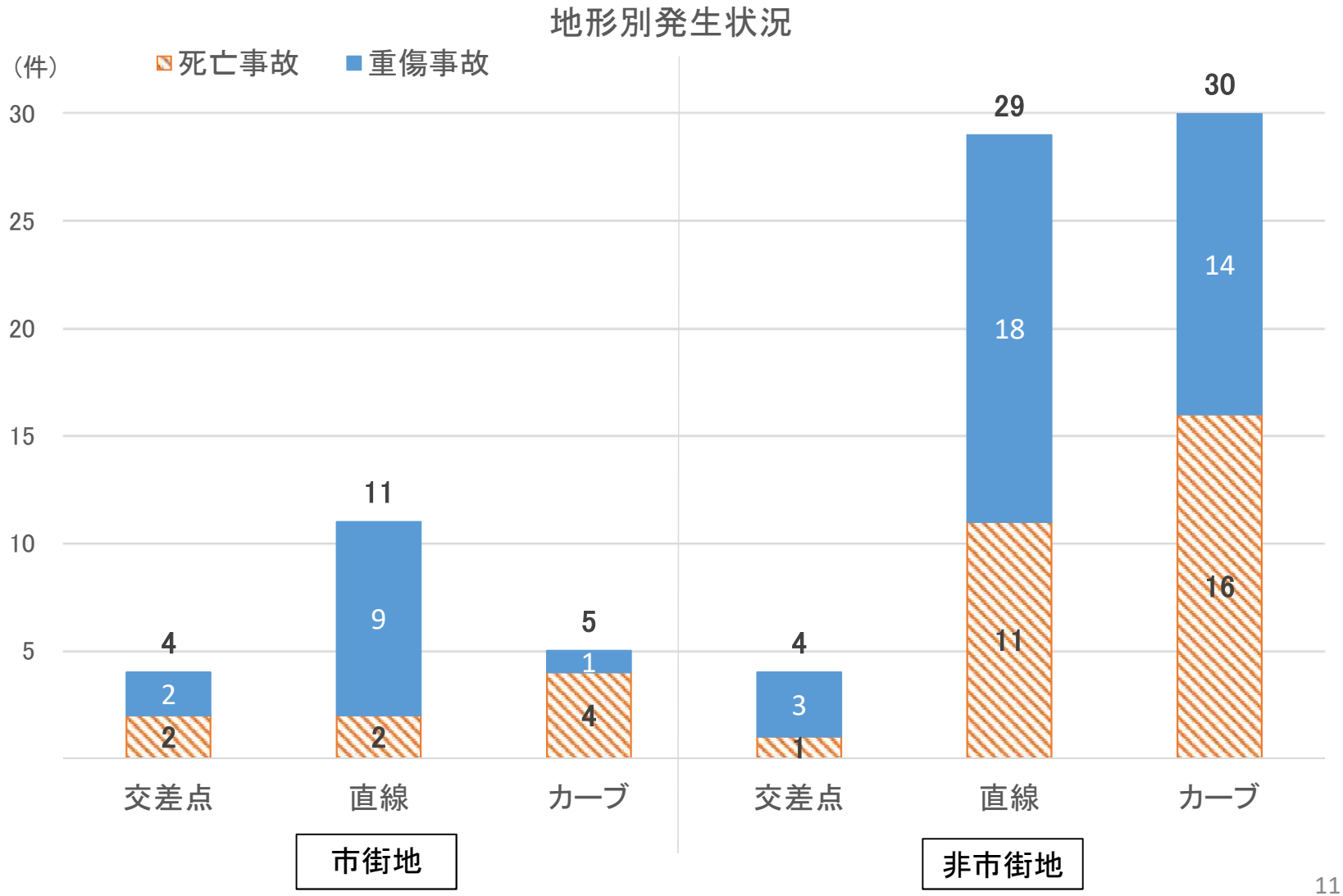
発生件数全体でみると、16～18時が最も多く、次いで10～12時、14～16時が多い。
死亡事故件数は、10～12時が最も多く、次いで12～14時が多い。





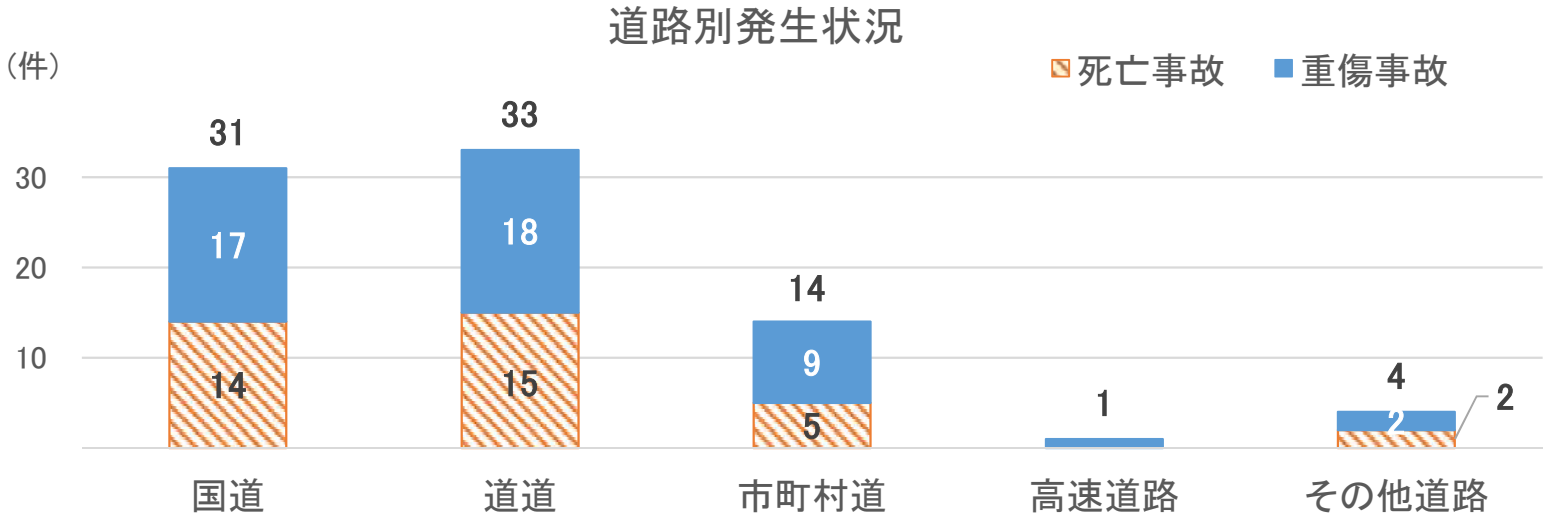
３－２　正面衝突・車両単独における地形別発生状況（過去5年累計）

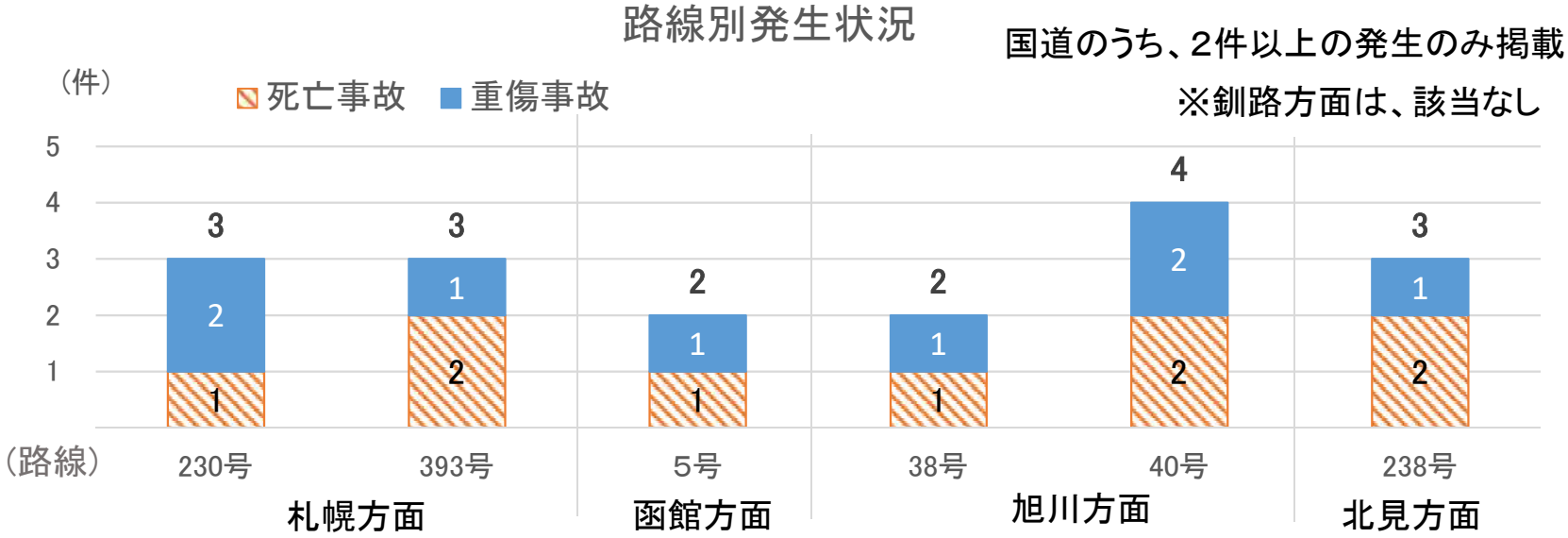
死亡事故件数は、非市街地カーブが最も多く、次いで非市街地直線が多い。
死亡事故の約8割が非市街地である。



３－３　正面衝突・車両単独における道路別発生状況（過去５年累計）

道道での発生が最も多く、次いで国道での発生が多い。



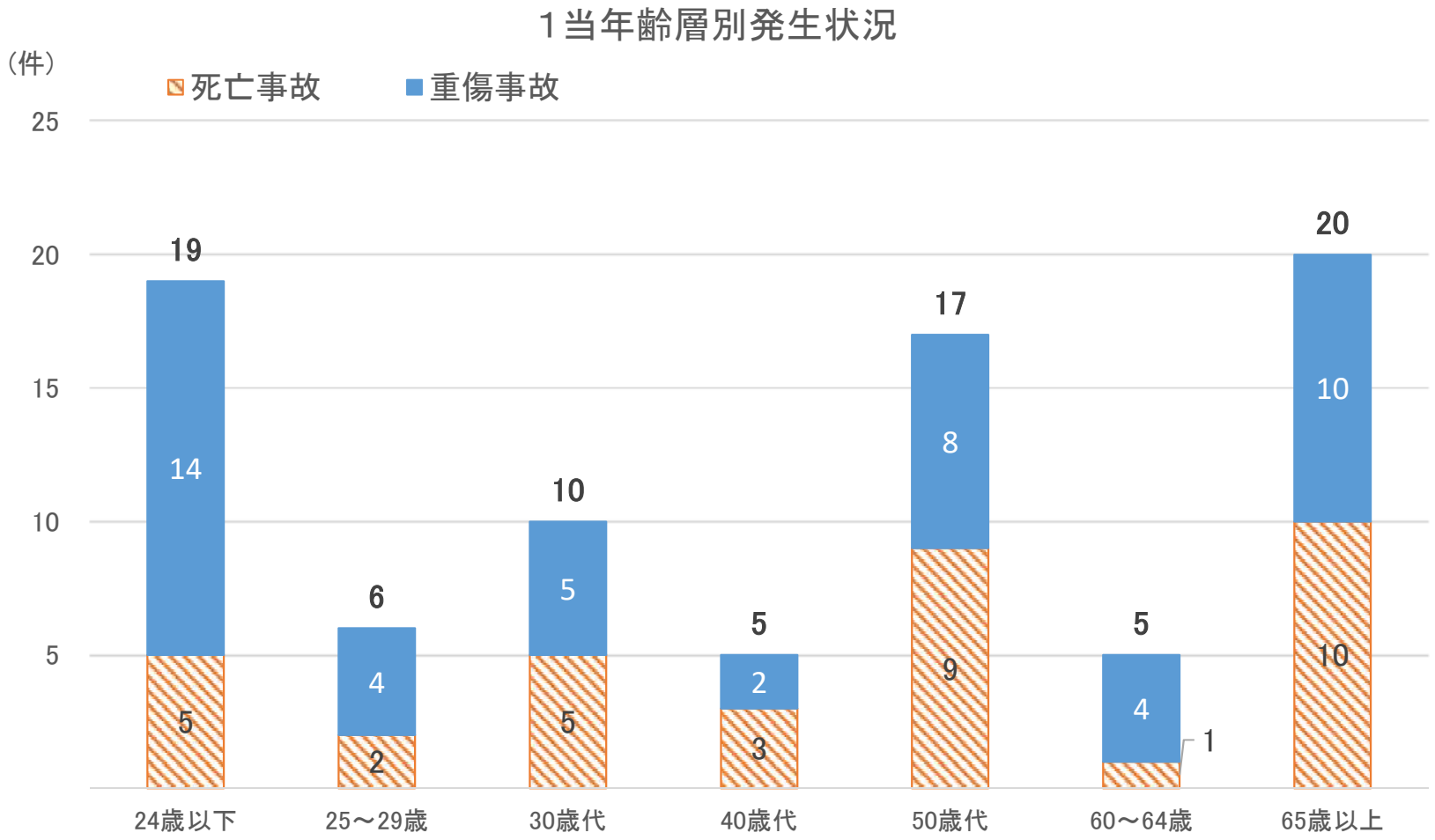


国道のうち、２件以上の発生のみ掲載

※釧路方面は、該当なし

３－４　正面衝突・車両単独における1当の年齢層別発生状況（過去5年累計）

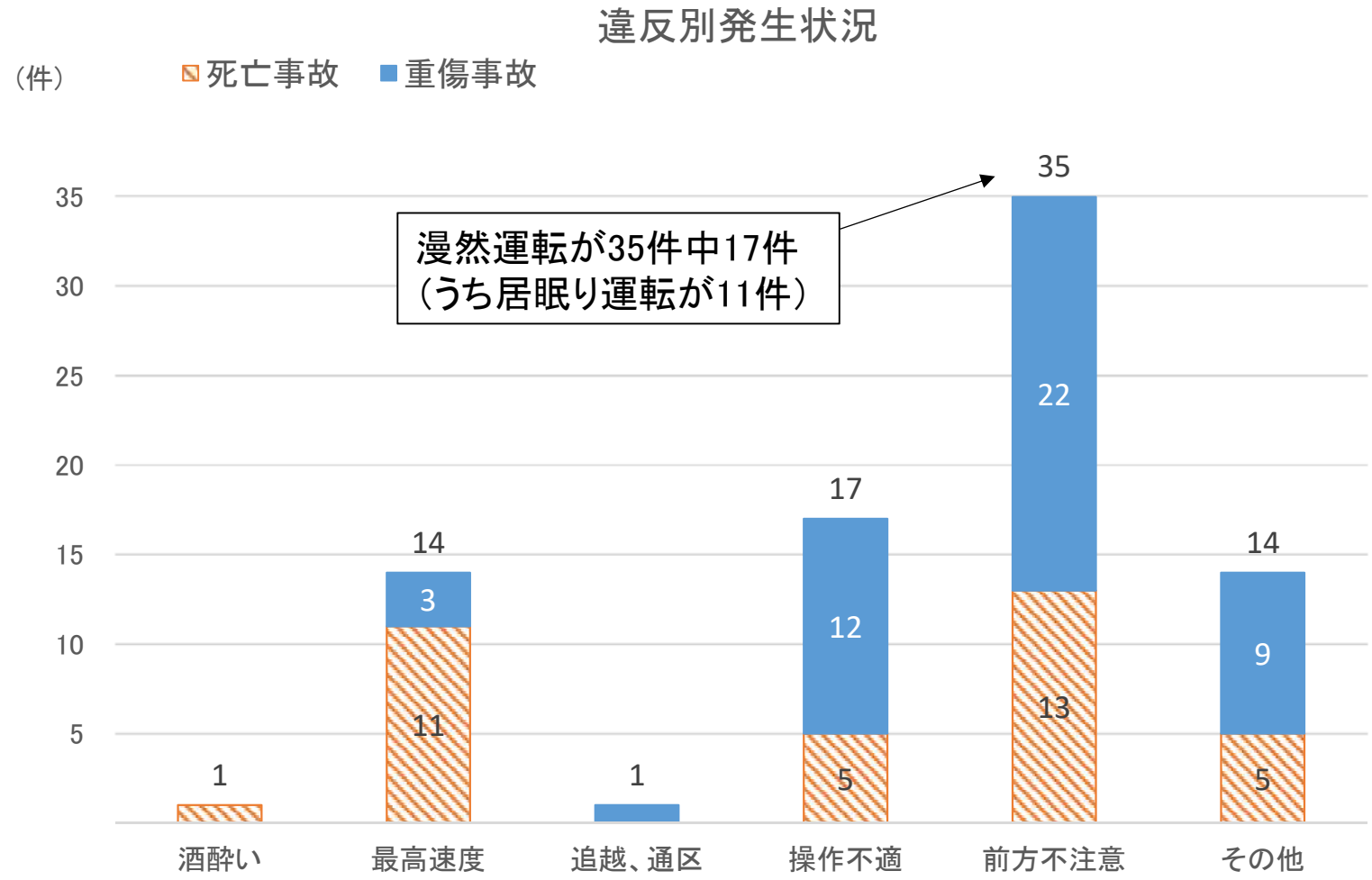
65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで24歳以下の若年者が多い。



※　1当が自転車、歩行者の場合を除く

３－５　正面衝突・車両単独における１当の違反別発生状況（過去5年累計）

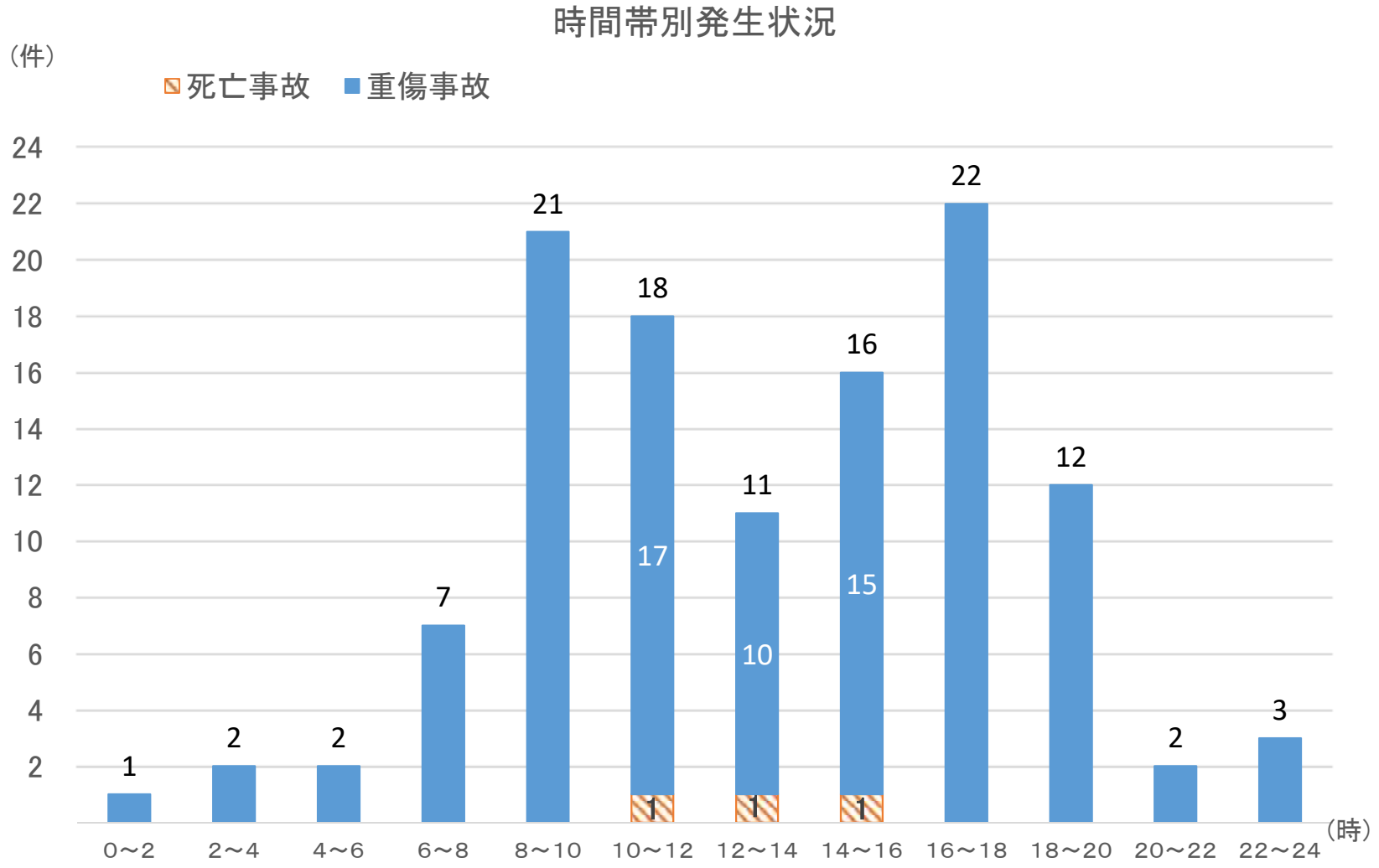
発生件数全体で見ると、前方不注意が最も多く、次いで操作不適が多い。
死亡事故件数は、前方不注意が最も多く、次いで最高速度が多い。



※　１当が自転車の場合を除く

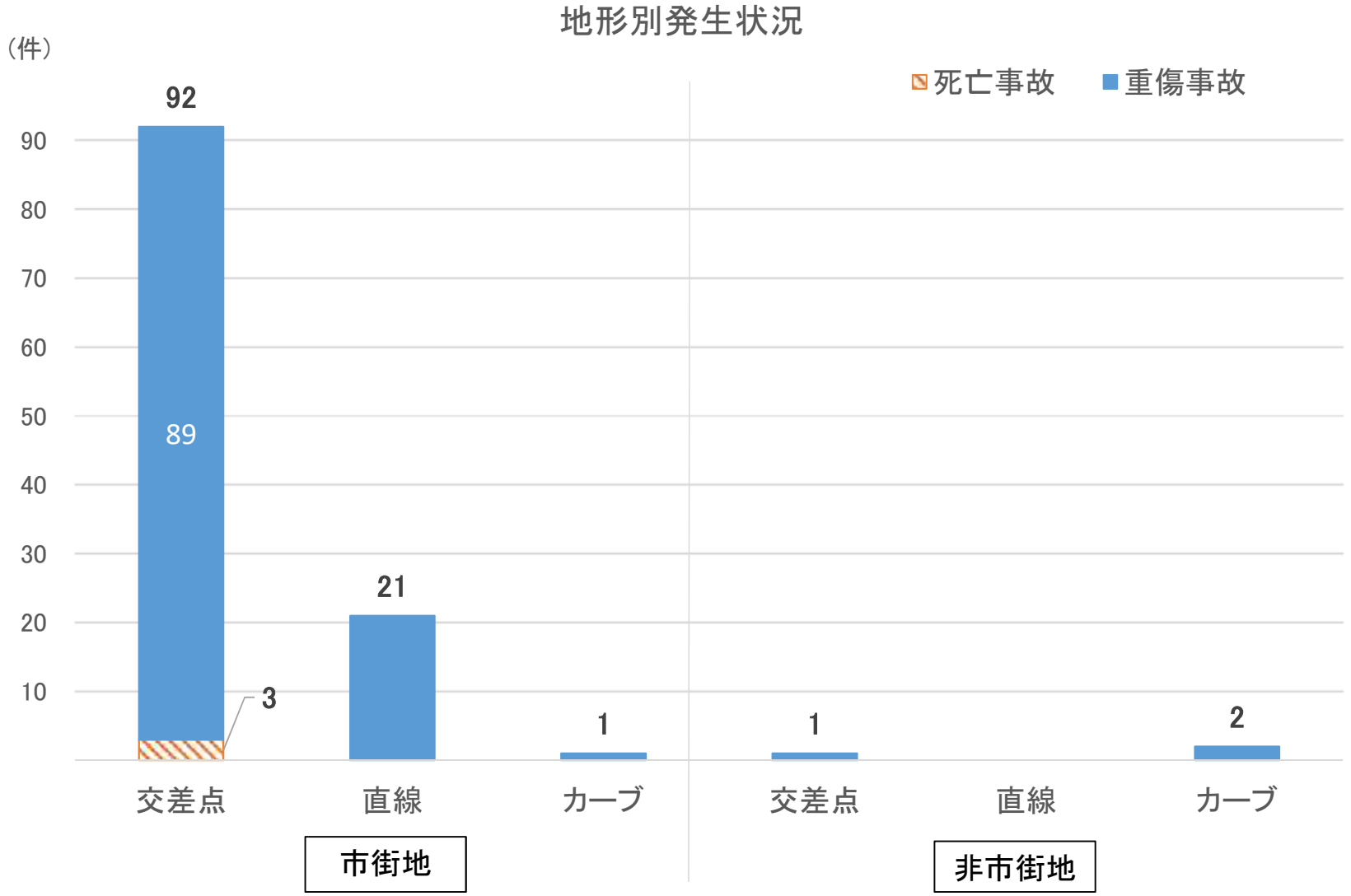
４－１　自転車対車における時間帯別発生状況（過去5年累計）

死亡事故は、10～12時、12～14時、14～16時にそれぞれ1件発生している。
重傷事故件数は、16～18時が最も多く、次いで8～10時が多い。



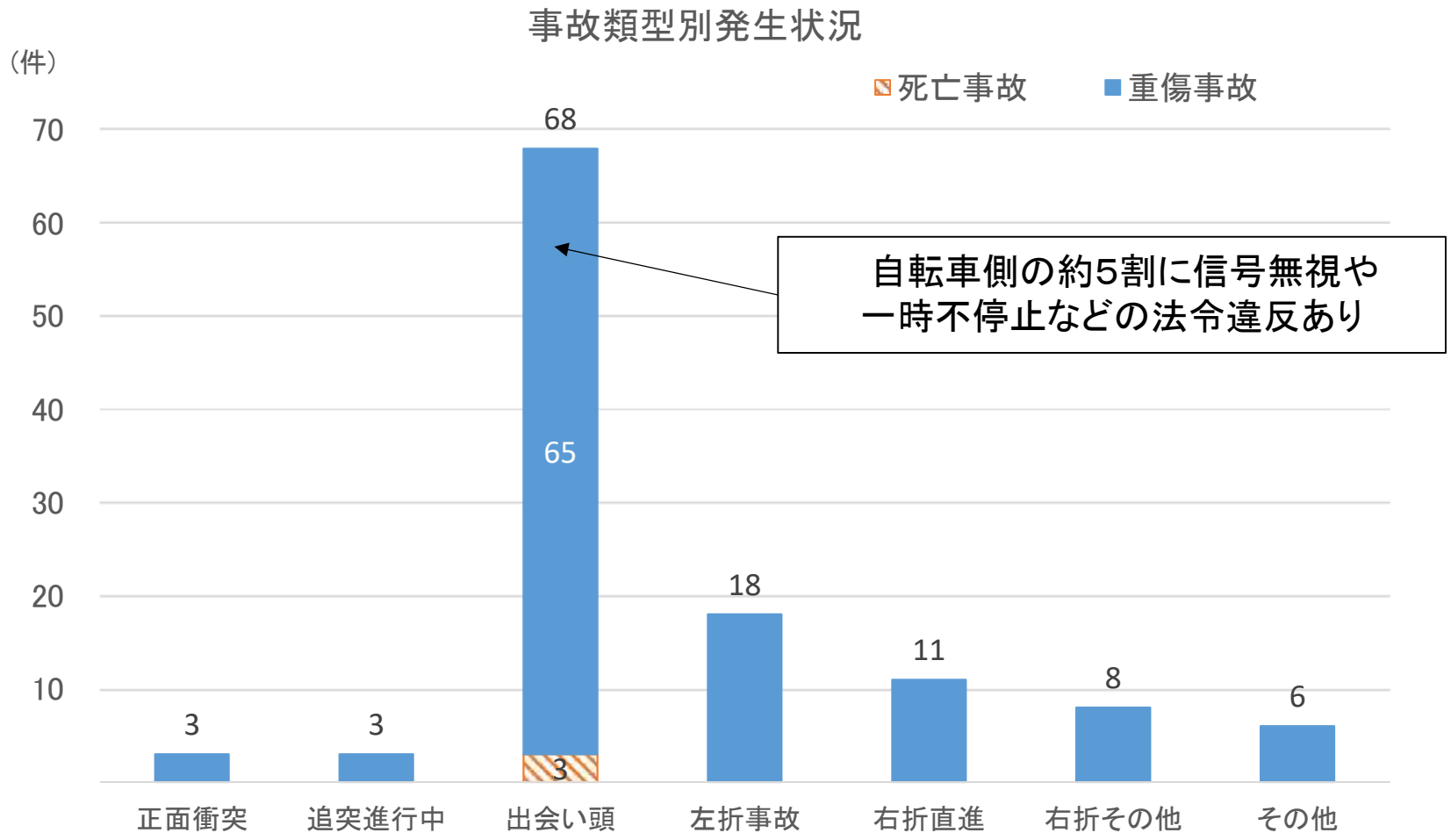
４－２　自転車対車における地形別発生状況（過去5年累計）

死亡事故は、全て市街地交差点で発生している。
重傷事故件数は、市街地交差点が最も多く、次いで市街地直線が多い。

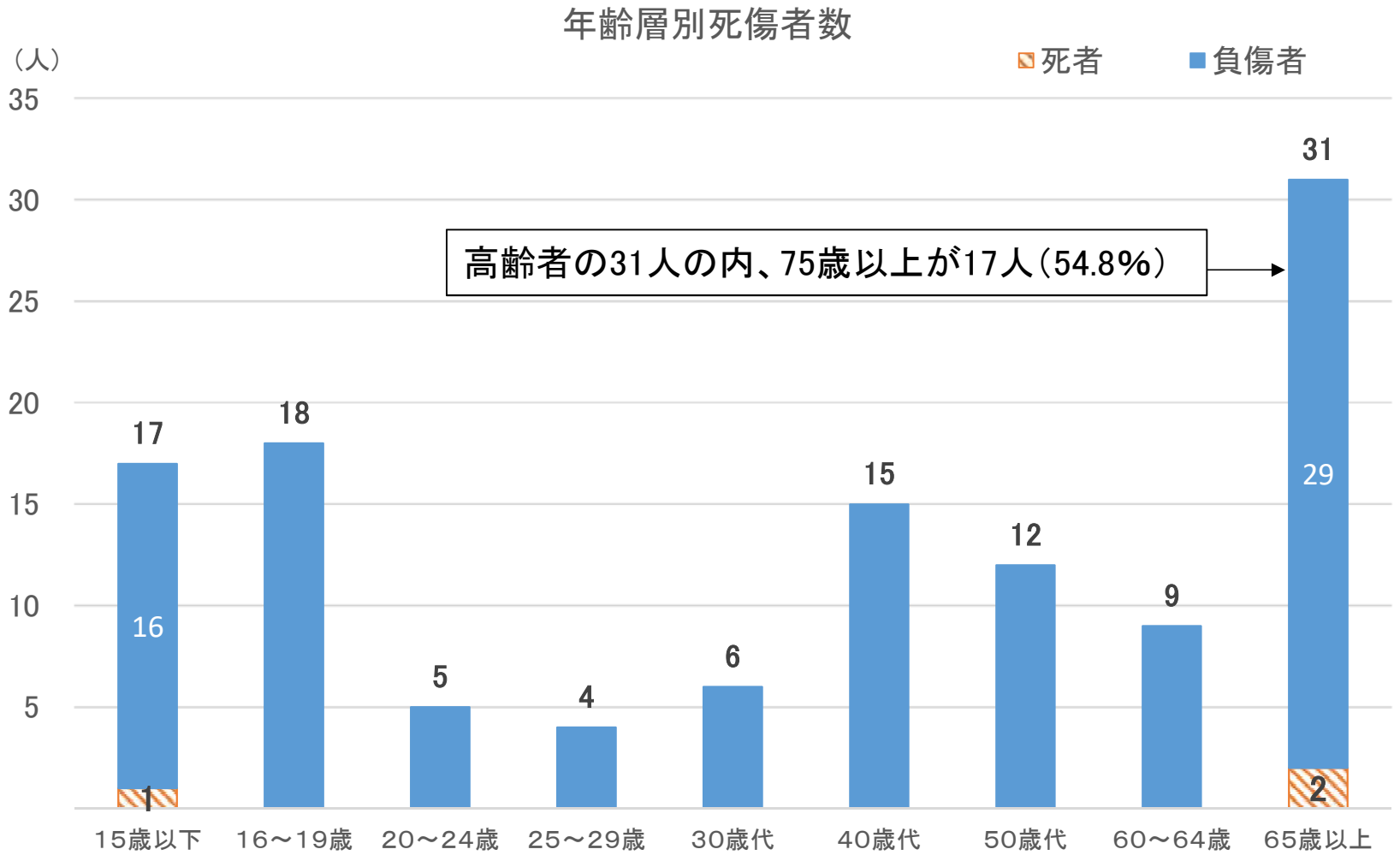


４－３　自転車対車における事故類型別発生状況（過去5年累計）

死亡事故は、出会い頭で3件発生している。
重傷事故件数は、出会い頭が最も多く、次いで左折事故が多い。



（注）「左折事故」、「右折その他」とは一方の車両等が、左折、右折時に発生した事故をいう。

４－４　自転車対車における自転車乗用中の年齢層別死傷者数（過去5年累計）

負傷者数で見ると、65歳以上の高齢者が突出して多い。
死者数は65歳以上が２人、15歳以下が１人である。